

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

## セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポーシジョンの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

# デーヴォ ガイド



**2020.5.25-31**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポーシジョンの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

23:15 主人のもとからあなたのところに逃げて来た奴隷を、その主人に引き渡してはならない。

23:16 あなたがたのうちに、あなたの町囲みのうちのどこでも彼の好むままに選んだ場所に、あなたとともに住まわせなければならぬ。彼をしいたげてはならない。

23:17 イスラエルの女子は神殿娼婦になつてはならない。イスラエルの男子は神殿男娼になつてはならない。

23:18 どんな誓願のためでも、遊女のもうけや犬のかせぎをあなたの神、主の家に持って行ってはならない。これはどちらも、あなたの神、主の忌みきらわれるものである。

23:19 金銭の利息であれ、食物の利息であれ、すべて利息をつけて貸すことのできるものの利息を、あなたの同胞から取ってはならない。

23:20 外国人から利息を取ってもよいが、あなたの同胞からは利息を取ってはならない。それは、あなたが、はいつて行って、所有しようとしている地で、あなたの神、主が、あなたの手のわざのすべてを祝福されるためである。

23:21 あなたの神、主に誓願をするとき、それを遅れずに果たさなければならぬ。あなたの神、主は、必ずあなたにそれを求め、あなたの罪とされるからである。

23:22 もし誓願をやめるなら、罪にはならない。

23:23 あなたのくちびるから出たことを守り、あなたの口で約束して、自分から進んであなたの神、主に誓願したとおりに行なわなければ

ばならない。

23:24 隣人のぶどう畑にはいったとき、あなたは思う存分、満ち足りるまでぶどうを食べてもよいが、あなたのかごに入れてはならない。

23:25 隣人の麦畑の中にはいったとき、あなたは穂を手で摘んでもよい。しかし、隣人の麦畑でかまを使つてはならない。

「逃げて来た奴隷」は、身の危険があつたなどの事情があるのですから、行く場がないので、彼を助けなければなりません。最も苦しい境遇と言つてよいでしょう。身分のためにそのような人が助けられないなら、民の中に主の御心は働いていないこととなります。苦境にある人を、その人が誰であつても助けましょう。

異教の神殿には娼婦や男娼がいました。もともと偶像とは人間の欲望を満たすために造つたものですから、偶像を拜むことと欲望を満たすことはつながりやすいのです。しかしイスラエルでは、偶像ではなく真の神を礼拝しました。欲望よりも神の聖なる意思に従います。しかし周辺国の影響されて遊女も出現したようです。信仰と欲望が混同されないように、自分自身の魂を見張りましょう。

金や食物を貸すというのは、困つた人に対してだと考えられます。本来助けるべき行為が、相手の負担になつたり、自分自身の欲得のためであつたりしてはなりません。外国人は神の民イスラエルとは違う倫理観で生きていたでしょうから、彼らの習慣に則つて貸すということかも知れません。少なくとも主に従う者に対しては、助ける思いがなければなりません。

「主に誓願をするとき、それを遅れずに果たさなければならぬ。」とあります。祈りの中で約束して、まだ実行していないことはないでしょうか。もしも無理なことであるなら、「誓願をやめる」必要があります。それはもう一度祈り直して、主の御心を聞き直すことです。

「思う存分」食べられたら、その持ち主は損を

することになります。しかし、その実りは主が与えたものです。与える者には、もっと多くが与えられるという信仰を持ちましょう。必要がある人は、自分を卑下することなく、主の御心として感謝して、主の許される中で受けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





24:1 人が妻をめとって、夫となったとき、妻に何か恥ずべき事を発見したため、気に入らなくなった場合は、夫は離婚状を書いてその女の手に渡し、彼女を家から去らせなければならない。

24:2 女がその家を出て、行って、ほかの人の妻となったなら、

24:3 次の夫が彼女をきらい、離婚状を書いてその女の手に渡し、彼女を家から去らせた場合、あるいはまた、彼女を妻としてめとったあとの夫が死んだ場合、

24:4 彼女を出した最初の夫は、その女を再び自分の妻としてめとることはできない。彼女は汚されているからである。これは、主の前に忌みきらうべきことである。あなたの神、主が相続地としてあなたに与えようとしておられる地に、罪をもたらしてはならない。

24:5 人が新妻をめとったときは、その者をいくさに出してはならない。これに何の義務をも負わせてはならない。彼は一年の間、自分の家のために自由の身になって、めとった妻を喜ばせなければならない。

24:6 ひき曰、あるいは、その上石を質に取ってはならない。いのちそのものを質に取ることになるからである。

24:7 あなたの同族イスラエル人のうちのひとりや二人をさらって行き、これを奴隷として扱い、あるいは売り飛ばす者が見つかったなら、その人さらいは死ななければならない。あなたがたのうちからこの悪を除き去りなさい。

24:8 ツアラアトの患部には気をつけて、すべてレビ人の祭司が教えるとおりによく守り行なわなければならない。私が彼らに命じた

とおりに、それを守り行なわなければならない。

24:9 あなたがたがエジプトから出て来たとき、その道中で、あなたの神、主がミリヤムにされたことを思い出しなさい。

24:10 隣人に何かを貸すときに、担保を取るため、その家にはいってはならない。

24:11 あなたは外に立っていなければならない。あなたが貸そうとするその人が、外にいるあなたのところに、担保を持って出て来なければならない。

24:12 もしその人が貧しい人である場合は、その担保を取ったままで寝てはならない。

24:13 日没のころには、その担保を必ず返さなければならない。彼は、自分の着物を着て寝るなら、あなたを祝福するであろう。また、それはあなたの神、主の前に、あなたの義となる。

この「恥ずべき事」を、イエス様は不貞と理解しておられました。妻がそのようなことをした場合、その夫婦関係にとどまることはできませんでしたが、しかしまた結婚することは許されたようです。心機一転して新しい人生を始めることはできたようですが、また同じ事を繰り返して初めの夫に戻ることはできませんでした。もしもそれが許されるなら「地に」倫理的な混乱を招くでしょう。

新婚の人、ひき曰を質に入れるほど貧しい人を思いやるのが命じられています。私たちが共感や同情の心を持って行動しましょう。

ツアラアトは感染症なので、罪のイメージと似ています。衛生面で正しい習慣を守ることと、そこから罪についての警戒を学ぶ必要がありました。私たちは感染症と罪を混同してはなりません。また病の原因を罪と短絡的に考えてはなりません。しかし罪が感染するものであることは肝に銘じておく必要があります。しっかりとときよめられま

しょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 27日 水曜

### 申命記

24:14 貧しく困窮している雇い人は、あなたの同胞でも、あなたの地で、あなたの町囲みのうちにいる在留異国人でも、しいたげてはならない。

24:15 彼は貧しく、それに期待をかけているから、彼の賃金は、その日のうちに、日没前に、支払わなければならない。彼があなたのことを主に訴え、あなたがとがめを受けることがないように。

24:16 父親が子どものために殺されてはならない。子どもが父親のために殺されてはならない。人が殺されるのは、自分の罪のためでなければならない。

24:17 在留異国人や、みなしごの権利を侵してはならない。やもめの着物を質に取ってはならない。

24:18 思い起こしなさい。あなたがエジプトで奴隷であったことを。そしてあなたの神、主が、そこからあなたを贖い出されたことを。だから、私はあなたにこのことをせよと命じる。

24:19 あなたが畑で穀物の刈り入れをして、束の一つを畑に置き忘れたときは、それを取りに戻ってはならない。それは、在留異国人や、みなしご、やもめのものとしなければならない。あなたの神、主が、あなたのすべての手のわざを祝福してくださるためである。

24:20 あなたがオリーブの実を打ち落とすときは、後になってまた枝を打ってはならない。それは、在留異国人や、みなしご、やもめのものとしなければならない。

24:21 ぶどう畑のぶどうを収穫するときは、後になってまたそれを摘み取ってはならない。



それは、在留異国人や、みなしご、やもめのものとしなければならない。

24:22 あなたは、自分がエジプトの地で奴隷であったことを思い出しなさい。だから、私はあなたにこのことをせよと命じる。

困窮している人や社会的弱者のための命令です。そのような人々の生活や思いにも心を砕かなければならないのであり、そのために具体的に主がモーセを通して命じられています。

そこには「エジプトで奴隷であった」という過去を思い出すようにとあります。自分も同じであったということは、また同じになる可能性もあるのです。私たちも、弱い方々のために配慮することが、自分のためでもあったかもしれないとの思いに立ちましよう。

穀物やオリーブを収穫するのに、取り残しを覚えて放置するのは効率が悪いでしょう。そのようなことを命じられる社会の生産性は上がらないでしょう。しかしその上がらなかった分は、それを必要としている人のものだ、主は仰せられます。

主はそれが社会に必要であると考えておられるのです。現代でも同じです。生産性や効率を追求しすぎると、人々の心がずさんできます。そのような社会は何年後には、心の問題から生産性までもが失われてゆくでしょう。すでにそのような現象が見られます。

これは教会でも、家庭でも、職場でも、学校でも同じでしょう。みなが安心して心を通わせるところに、本当の共同体の姿があるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



25:1 人と人との間で争いがあり、彼らが裁判に出頭し、正しいほうを正しいとし、悪いほうを悪いとする判決が下されるとき、

25:2 もし、その悪い者が、むち打ちにすべき者なら、さばきつかさは彼を伏させ、自分の前で、その罪に応じて数を数え、むち打ちにしなければならぬ。

25:3 四十までは彼をむち打ってよいが、それ以上はいけぬ。それ以上多くむち打たれて、あなたの兄弟が、あなたの目の前で卑しめられないためである。

25:4 脱穀をしている牛にくつこを掛けてはならない。

25:5 兄弟がいっしょに住んでいて、そのうちのひとりが死に、彼に子がない場合、死んだ者の妻は、家族以外のよそ者にとついでではない。その夫の兄弟がその女のところに、はいり、これをめとって妻とし、夫の兄弟としての義務を果たさなければならぬ。

25:6 そして彼女が産む初めの男の子に、死んだ兄弟の名を継がせ、その名がイスラエルから消し去られないようにしなければならぬ。

25:7 しかし、もしその人が兄弟の、やもめになった妻をめとりたくない場合は、その兄弟のやもめになった妻は、町の門の長老たちのところに行って言わなければならない。「私の夫の兄弟は、自分の兄弟のためにその名をイスラエルのうちに残そうとはせず、夫の兄弟としての義務を私に果たそうとしません。」

25:8 町の長老たちは彼を呼び寄せ、彼に告げなさい。もし、彼が、「私は彼女をめとりたくない。」と言い張るなら、

25:9 その兄弟のやもめになった妻は、長老たちの目の前で、彼に近寄り、彼の足からくつを脱がせ、彼の顔につばきして、彼に答えて言わなければならない。「兄弟の家を立てない男は、このようにされる。」

25:10 彼の名は、イスラエルの中で、「くつを脱がされた者の家」と呼ばれる。

「悪い」と判決が下された者に対しても、「卑しめられない」ようにするのが主の御心です。同じ人であり、神の前には同じ罪人であることを考えると、今も同じことが言えます。

「くつこ」とは口をふさぐ道具であり、「脱穀をしている牛に」掛けるなら、食べることができません。仕事をするものの権利として命じられています。新約でもパウロはこのところを、フルタイムの働き人のために引用しています。十分な報酬が尊敬として与えられるべきであるということです。

5節以下を見ると、神がいかに長子を尊重しておられたかが分かります。それは一族の平和のためでもあります。一方、神の長子であるイエス様を表すためでもあります。一族の中で長子を尊重することは、権威と秩序を守ることであり、それは女性への好き嫌いを超える重大事です。それが尊重できない人は恥を見ることになりました。

神が与えられた権威と秩序を尊重しましょう。また神の長子であられる御子イエスの権威と秩序を守りましょう。その点で恥を見ないようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



25:11 ふたりの者が互いに相争っているとき、一方の者の妻が近づき、自分の夫を、打つ者の手から救おうとして、その手を伸ばし、相手の隠しどころをつかんだ場合は、

25:12 その女の手を切り落としなさい。容赦してはならない。

25:13 あなたは袋に大小異なる重り石を持っていてはならない。

25:14 あなたは家に大小異なる枡を持っていてはならない。

25:15 あなたは完全に正しい重り石を持ち、完全に正しい枡を持っていなければならない。あなたの神、主があなたに与えようとしておられる地で、あなたが長く生きるためである。

25:16 すべてこのようなことをなし、不正をする者を、あなたの神、主は忌みきらわれる。

25:17 あなたがたがエジプトから出て、その道中で、アマレクがあなたにした事を忘れないこと。

25:18 彼は、神を恐れることなく、道であなたを襲い、あなたが疲れて弱っているときに、あなたのうしろの落後者をみな、切り倒したのである。

25:19 あなたの神、主が相続地としてあなたに与えて所有させようとしておられる地で、あなたの神、主が、周囲のすべての敵からあなたを解放して、休息を与えられるようになったときには、あなたはアマレクの記憶を天の下から消し去らなければならない。これを忘れてはならない。

「隠しどころ」とは男性器のことです。いかなる事情があっても、女性がこれを攻撃することは赦されませんでした。「手を切り落としなさい」という

のはあまりにも厳しいと思えます。この命令に関しては、非常にまれな具体的状況が前提になっており、実際に適用されるような事件は起きづらいでしょう。おそらくこれは刑を執行するためではなく、抑止的な目的で語られたと思われる。だとしても、女性は男性を辱めたり卑しめたりすることは、してはならないということです。

秤（はかり）や枡（ます）にしかけをして、グレーな利益を得ることは禁じられています。そのような人生を歩むなら、祝福はなく逆に敵をつくり、そして長く生きることはいけません。少なくとも本当の人生を送ることできなくなってしまいます。

「アマレクがあなたにした事」の記憶はイスラエルの危機管理に役立ったと思われます。同じような民に悩まされることもあるでしょう。また主の守ってくださったことも同時に思い出すでしょう。

しかしそのアマレクのような偶像礼拝の民がイスラエルの誘惑にもなり得ます。興味本位で敵のことを見ると、落とし穴があるのです。ですからアマレクのしたことは忘れないで、そしてアマレクへの興味からくる記憶は消さなくてはなりません。私たちも、過去の悩みやその原因を忘れずに今に生かしましょう。また守られたことを主に感謝しましょう。そして興味本位になりそうな事柄は忘れましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 30日 土曜

### 申命記

26:1 あなたの神、主が相続地としてあなたに与えようとしておられる地には行って行き、それを占領し、そこに住むようになったときは、

26:2 あなたの神、主が与えようとしておられる地から収穫するその地のすべての産物の初物をいくらか取って、かごに入れ、あなたの神、主が御名を住まわせるために選ぶ場所へ行かなければならない。

26:3 そのとき、任務についている祭司のもとに行き、「私は、主が私たちに与えると先祖たちに誓われた地にはいりました。きょう、あなたの神、主に報告いたします。」と言いなさい。

26:4 祭司は、あなたの手からそのかごを受け取り、あなたの神、主の祭壇の前に供えなさい。

26:5 あなたは、あなたの神、主の前で、次のように唱えなさい。「私の父は、さすらいのアラム人でしたが、わずかな人数を連れてエジプトに下り、そこに寄留しました。しかし、そこで、大きくて強い、人数の多い国民になりました。

26:6 エジプト人は、私たちに虐待し、苦しめ、私たちに過酷な労働を課しました。

26:7 私たちが、私たちの父祖の神、主に叫びますと、主は私たちの声を聞き、私たちの窮状と労苦と圧迫をご覧になりました。

26:8 そこで、主は力強い御手と、伸べられた腕と、恐ろしい力と、しるしと、不思議とをもって、私たちをエジプトから連れ出し、

26:9 この所に導き入れ、乳と蜜の流れる地、この地を私たちに下さいました。



26:10 今、ここに私は、主、あなたが私に与えられた地の産物の初物を持ってまいりました。」あなたは、あなたの神、主の前にそれを供え、あなたの神、主の前に礼拝しなければなりません。

26:11 あなたの神、主が、あなたとあなたの家とに与えられたすべての恵みを、あなたは、レビ人およびあなたがたのうちの在留異国人とともに喜びなさい。

「初穂」を主にささげるということは、主を第一にしているということです。収穫して十分に蓄えて、その残りをささげるではありません。主にささげた後に、その後刈り入れができなくなるということはまずないと思いますが、仮にそうであったとしても、先ず主にささげるのです。主が与えてくださった収穫だからです。それは今の私たちも同じです。

またそのささげものには信仰と感謝が込められます。単に収穫が与えられたというだけではなく、そこには信仰の理解がありました。すなわち、この収穫をもたらした地は、主への信仰で従ってきた約束の地なのだということです。主は信仰のゆえに祝福して下さるのです。私たちの収入や成功もまた主のご計画と約束、それに従った信仰のゆえであることを覚えて、主に感謝し、そして主へのささげものを優先させましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



26:12 第三年目の十分の一を納める年に、あなたの収穫の十分の一を全部納め終わり、これをレビ人、在留異国人、みなしご、やもめに与えて、彼らがあなたの町囲みのうちで食べて満ち足りたとき、

26:13 あなたは、あなたの神、主の前で言わなければならない。「私は聖なるささげ物を、家から取り出し、あなたが私に下された命令のとおり、それをレビ人、在留異国人、みなしご、やもめに与えました。私はあなたの命令にそむかず、また忘れもしませんでした。

26:14 私は喪のときに、それを食べず、また汚れているときに、そのいくらかをも取り出しませんでした。またそのいくらかでも死人に供えたこともありません。私は、私の神、主の御声に聞き従い、すべてあなたが私に命じられたとおりにいたしました。

26:15 あなたの聖なる住まいの天から見おろして、御民イスラエルとこの地を祝福してください。これは、私たちの先祖に誓われたとおりに私たちに下さった地、乳と蜜の流れる地です。」

26:16 あなたの神、主は、きょう、これらのおきてと定めとを行なうように、あなたに命じておられる。あなたは心を尽くし、精神を尽くして、それを守り行なおうとしている。

26:17 きょう、あなたは、主が、あなたの神であり、あなたは、主の道に歩み、主のおきてと、命令と、定めとを守り、御声に聞き従うと断言した。

26:18 きょう、主は、こう明言された。あなたに約束したとおりに、あなたは主の宝の民であり、あなたが主のすべての命令を守るなら、

26:19 主は、賛美と名声と栄光とを与えて、あなたを主が造られたすべての国々の上に高くあげる。そして、約束のとおり、あなたは、あなたの神、主の聖なる民となる。

ここにある「第三年目の十分の一」は第二の十分の一と呼ばれるもので、神殿にささげるものとは別で、あらゆる人々と楽しむためのものです。特に豊かにはなりづらい人々のためにも楽しむものです。

このように信仰は主の祝福をもたらすものですから、それを大いに喜ぶことは健全なことです。教会の交わりでも大いに喜び楽しむ必要があります。ただしここにあるように、気に入ったメンバーだけでなく、外の人をも仲間にして楽しむべきです。実はその方が、もっと楽しいものです。

そこで祈るように語られています。信仰を守りましたという祈りです。これは主に従う自己像の確立になると思われます。あまり馴染みがない人もいるかもしれませんが、このようは祈りもしてみましよう。

そして、時に応じて16節からあるような、主への従順と祝福の一体を思い起こしては、前進してゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

